

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
芸術と感性		BNNBS2L17	10303	1前	2(15)	選択
担当教員	細井 信宏					
概要	木炭や水彩、土粘土などによる絵画造形活動を通して、芸術の根本要素である光、闇、色彩、動きなどの本質を体験しながら、自らが有する『感性の力』を高める活動を行う。この活動を通して、自然界、生物界、人間の心と体、人間関係、子育てなど、身の回りや自らの中で起きている様々な事象への洞察力を高めていく。そして芸術と様々な事象における『調和的美』についての探究を行う。作品の上手下手という技術的な価値に傾倒するのではなく、自らが感じ、表現していく積極的な活動そのものに重点を置いていく。					
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが有している知識や概念だけで周囲の事象を判断するのではなく、自らの観察力と感じ取る力を通してより深く理解しようとする姿勢を持つことができる。 ・他者や自らの作品の中に表れる個性的違いに気づき、自らを含む各々の個性を尊重できる。 ・様々な事象の中に見受けられる対極的特徴を認識し、その中で自らが調和的に働きかけていくことの大切さを理解する。 					
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		
1	【光と闇へのまなざし】 外世界に作用し、内世界(心)にも作用している光と闇。その本質を木炭による素描を通して体験する。			授業で感じたことや新しい気づき、疑問点などを簡単なメモとしてまとめておく。それを次回での質問や意見としての表明に役立てる。また、レポート作成に役立てる。		
2	【光と闇の相互作用から生まれる可能性】 創造を司る芸術において光と闇は無くしてはならない主要素。前回の木炭素描を更に進めていながら、その世界から創造される可能性と多様性について考える。			同上		
3	【色彩へのまなざし】 色はどのようにして生じるのか。光と闇と色との関係について、太古の人々と現代人の色認識の違いについて考察する。水彩による一つ一つの色の本質を感じ取っていく課題に取り組む。			同上		
4	【色と色の相互作用から生まれる可能性】 色は光と闇以上に人の心に影響を与える力を有している。前回の水彩課題を更に進めていながら、混色から生み出された新たな色の本質を感じ取る課題に取り組む。			同上		
5	【色環の移り変わりの中から見えてくる時の流れ】 色の移り変わりを水彩で体験しながら、そこからどのような時間の流れを感じ取ることができるのかを観察する。			同上		
6	【色と色の相互作用から生まれる創造性】 前回の水彩課題を更に進めていながら、具体的な原風景的空間を創造する。			同上		
7	【自然環境(地・水・風・火)へのまなざし】 私達を創り出した自然環境。その作用に視点を向けていく。水と大気の性質の違いを土粘土による造形活動と並行しながら探究する。			同上		
8	【生物の形態変化へのまなざし】 太古の時代に長い年月をかけて進化し衰退していった生物の姿を、土粘土による造形活動を通して体験する。			同上		
9	【生物の形態変化と水的、大气的性質】 生物の成長や進化の流れの中に水と大気の性質がどのように関わっているのかを、土粘土による造形活動を通して考察する。			同上		
10	【人体の健康へのまなざし】 体内の働きによる健康の維持と、水と大気の性質との関係について、これまでの土粘土による体験を通して考察する。			同上		
11	【自由造形への取り組み】 これまでの体験的学びを基礎としながら、土粘土を使った自由な形態表現への取り組みを行う。この取り組みの中で子育てや教育との関係性について考察する。			同上		
12	【自由造形への取り組み】 前回の課題を更に進めていく。この取り組みの中で人間と動物の違いと人間の可能性について考察する。			同上		
13	【美と調和への探究】 前回の課題を更に進めていく。自らがケアしながら育ててきた形。そこに表れ出た個性と調和的美を、皆と共有する。			同上		
14	【心の世界へのまなざし】 私達にとって最も身近である心の世界。喜びや怒り、悲しみなどの感情にはどのような特徴が備わっているのか。パステルを使って光と闇、色の本質を重んじながら、一つ一つの感情を表現する。皆の作品と共に一つ一つの感情の特徴について客観的に観察していく。			同上		
15	【心の世界における調和的美の創造を目指して】 私達は時に感情に振り回されて過ごしている。感情世界を大きな視野で捉えていながら、芸術との関係性と心の健康について考察する。			同上		

使用 テキスト	テキストは使用しない。
参考図書	必要時、講義内で紹介。
成績評価 基準	授業参画20%、レポート80%